

透析液の加温方法

(停電などで加温器が使用できない場合)

小型バッグ加温器(ぽかおん)がある場合、車のシガーソケットより電源をとってご使用ください。

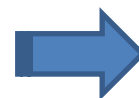


小型バッグ加温器(ぽかおん)がない場合、以下の方法を行ってもよいか主治医にご相談ください。

① 外袋は破らず、ビニール袋に入れ、40℃以下のお湯につけて温める。

* 透析液の温度が高温になる可能性がございますので、十分にご注意ください
43℃以上になると腹膜の熱傷を引き起こすことがあります。

② 透析液を抱いて体温で温める。



* CAPDバッグ加温器で一度温めた透析液について加温後に加温器の電源が切れてしまった際、どの程度温度を保持できるのか？

加温時間・加温バッグの数、外気の温度や停電の時間によって異なります。温度の保持は、どの程度なのかはつきりわかりません。また、必ず、注液前に**温度の確認**(人肌程度)を行い、いつもより低い位置に設置してゆっくり注液することで、低温による刺激はある程度回避されます。

治療中に災害が発生した場合の対処方法

- ①自分の安全を確保しましょう。
- ②治療を中断します。
- ③情報収集をしましょう。
 - ラジオなどで最新の情報を確認
 - 腹膜透析を続けられるかを確認
 - ・透析液はありますか？
 - ・器材は使えますか？
 - ・液や器材は破損していませんか？
 - ・電気や水道は使えますか？
- ④病院へ連絡
安否の報告、治療の相談などをしましょう。

【アドバイス】

災害時、一般の電話は非常にかかりにくくなりますので、公衆電話を使いましょう。公衆電話用の小銭を用意しておきましょう。災害伝言ダイヤルの利用も有効です。

※あらかじめ、家族や親類、友人との間で、自宅か連絡を取りたい方の電話番号を決めておきましょう。

断水が起こって 手洗い 入浴が出来ない場合

- 速乾性消毒薬、ウェットティッシュなどを使用して、手指の消毒をしましょう。

災害のために準備しておくもの

- バッグ交換の物品（透析液、交換キット類、カイロ、タオル、ウェットティッシュ）
- 出口部のケアの物品（消毒薬、綿棒、ガーゼ、テープ）
- 健康保険証、身体障害者手帳、CAPD緊急連絡カード、→
いつも飲んでいる薬、公衆電話用小銭、ラジオ など



バクスターからのお願い

災害時に病院と連絡がとれない場合には、下記にご連絡ください。
(夜間17:30～翌朝9:00や 土・日・祝日には社内体勢が整うまでお待ちいただくことがあります。)

透析液等の配送

バクスターカスタマーサービス
0120-033689
(フリーコール)

機器の故障等

バクスターコールセンター
0120-506440
(フリーコール)

次の場合には バクスターまで必ずご連絡をお願いします。

- 避難場所など、いつものご連絡先にいらっしやらない場合
- 薬が足りなくなるなど、至急連絡を取る必要がある場合

ご連絡を受けた後、おかけの医療機関に確認の上、ご指定の場所に緊急配送等をいたします。